

板橋区制施行90周年記念誌





みらいを描く

板橋に暮らす人々が
板橋のまちを「キャンパス」に
それぞれの想いを「色」にのせて
まるで絵本を創るように
物語と未来を描き
そして誰もが
「東京で一番住みたくなるまち」
と実感できるよう願って。



いたばし未来パレット

Culture

絵本のまち／国際交流

Challenge

挑戦

Support

成育支援

Generation

世代間交流

Environment

環境

Event

催事



未来へつづくまちを、みんなで。

昭和7年10月1日に板橋区が誕生し、本年、区制施行90周年を迎えました。

板橋区は、今や人口57万人を擁する生活都市であり、歴史と新しい時代の息吹が調和を奏でる魅力あるまちです。

あたたかい「ひと」と元気な「まち」に支えられ、「みどり」あふれる豊かな環境の中ではぐくまれてきた「文化」は、先人たちが築いてきた大切な財産です。

区制施行90周年の節目にあたり、これらの大切な財産を次の世代へ確実に「つなぎ」、継承していくとともに、コロナ禍を乗り越え、誰一人取り残さず、成長し続けるまちの実現に向け、果敢にチャレンジしていく刷新の精神でさらに板橋区が発展し、飛躍する契機としてまいります。



本年5月、板橋区は、「絵本がつなぐ『ものづくり』と『文化』のまちの実現～子育てのしやすさが定住を生む教育環境都市～」をテーマに提案し、国から「SDGs 未来都市」に選定されました。

どこでも身近に、誰でもわかりやすく理解できる「絵本」。これまではぐくんできた「絵本のまち板橋」は、ユニバーサルで誰でも参加できる持続可能なまちをめざすものであり、「誰一人取り残さない」SDGsの理念に通じるものです。

今後は、「SDGs 未来都市」の選定を契機に、絵本のまちを軸として、区の有する産業・文化・環境などの強みを活かしながら、若い世代の定住化と健康長寿のまちづくり、そして100周年、またその先の未来につながる持続可能なまちづくりを推進してまいります。

私たちには、先人が築き上げてきた歴史ある郷土に誇りを持ち、次代に引き継いでいく責務があります。これからもあたたかい心の絆によって結ばれ、「暮らしやすい」が叶う、板橋らしい「魅力あふれるまち」をめざし、区民のみなさまとともに、力を合わせて取り組んでまいります。

令和4年10月1日

坂本 健

Culture

絵本のまち

絵本がつむぐ文化が、
多様なひとびとをつなぎます。



「世界を知る」コーナーは、各国の絵本が国ごとに並びます。「国による偏りが出ないよう、すべての棚を同じ大きさにしました。絵本が異文化への窓になればと願っています。」（中央図書館 笹岡智子さん）
中央図書館は、親子でにぎわう1階、情報を集約・発信する2階、読書や調べ物、学習に集中できる3階と、目的にそって過ごせます。



1981年から「ボローニャ国際絵本原画展」を開催する板橋区立美術館。その縁でボローニャ児童図書展事務局から外国語絵本の寄贈を受け、2004年に開館した、いたばしボローニャ絵本館。両館を中心に絵本文化を築いてきた板橋区は、古くから印刷製本業に関連する企業が数多くある場所でもあります。そうした背景から、板橋区は「絵本のまち」として、絵本にまつわるさまざまなプロジェクトを展開してきました。

「絵本のまち」の拠点として、令和3年にリニューアルした板橋区立中央図書館の1階には、約2万2000冊の児童書がそろった「児童コーナー」と、移転・併設した、いたばしボローニャ絵本館があります。

100か国・70言語・3万冊の絵本を所蔵するいたばしボローニャ絵本館は、絵本を通じて広く世界の文化を伝えています。令和4年3月には、ボローニャ市立サラボルサ児童図書館と姉妹図書館となり、日本語とイタリア語で共同宣言を出し、記念展示を同時開催。今後も共同プロジェクトや交流を続け、国を越えて絵本文化をつむいでいきます。

平和公園をのぞむ1階のカフェスペース。公園内という立地から気軽に図書館を訪れる人が増えました。



板橋区立中央図書館
Itabashi Central Library

Culture

国際交流

国を越えた友情から広がる未来。



展覧会に訪れた過去の本展入選者と歓談する松岡館長。「ボローニャ展をきっかけに、入選者や作家の横のつながりも生まれています。さまざまな人たちの出会いのきっかけになればうれしい。」絵本を間に自然と会話が生まれるのもボローニャ展の魅力です。

板橋区立美術館で毎年、開催されている「ボローニャ国際絵本原画展」は、イタリア・ボローニャの児童書専門見本市「ボローニャ・チルドレンズ・ブックフェア」が主催する、児童書イラストレーション・コンクールの入選作品を紹介する展覧会です。美術館は40年以上にわたり、このブックフェアとともに原画展をつくりあげ、世界の絵本の魅力と多様な文化を伝えてきました。

2022年度のコンクールは92か国3,873件と、過去最多のエントリーがありました。

「絵本はそれぞれの違いが魅力であり、多様性に富んでいます。」と話すのは長年、展覧会とともに歩んできた松岡希代子館長。「板橋の子どもたちには、絵本や美術を通してそれぞれの違いをポジティブに受け止められるようになってほしいですね。それは、やがて未来を生き抜く力につながると思うのです。」

絵本は国や違いを越えて、板橋、そして世界中の人たちを友情で結んでいきます。

イタリアで開催された「ボローニャ・チルドレンズ・ブックフェア」の入り口。

板橋区立美術館の展覧会場では、29か国78名による多彩な表現・技法の入選作品が展示されました。

区立美術館の展示期間中に行われる絵本制作講座「夏のアトリエ」からは、多くの人材が育っています（写真は2019年）。



Challenge

挑戦

板橋は子どものチャレンジ精神をはぐくみます。



「こども動物クラブに所属する子どもたちはお手伝いではなく、仲間だと思って接しています。」と語るのは板橋こども動物園の飼育員。来園した子どものひざにそっとモルモットを乗せた女の子は、モルモットの抱き方を学んで、この日、接客にのぞみました。



板橋こども動物園



板橋こども動物園は、ポニーやヤギ、ヒツジ、モルモットなどの動物たちとのふれあいがたのしめる動物園。動物好きの子どもたちに人気の高い「こども動物クラブ」は、区内の小学3年生から中学生が、飼育員と同じように動物たちの世話全般から、来園者への対応までを行っています。飼育員や異年齢の子どもたちに刺激を受け、苦手なことにも挑戦する子どもたち。来園者や子ども同士の交流を経て、社会性や協調性も身につけていきます。

冒険家・植村直己は、約15年を板橋で暮らし、ここから日本人初のエベレスト登頂や北極での犬ぞり単独行などの冒険へ向かいました。どのような状況におかれても、人間らしい豊かな心で目標に向かい努力する「ウエムラ・スピリット」。令和3年にリニューアル・オープンした植村冒険館では、映像や展示を通して、次の冒険へと挑み続けた植村さんの熱いチャレンジ精神を伝えています。



植村冒険館

植村さんは、子どものために「冒険学校」をつくりたいと考えていました。「自然塾」では、小学4年生から高校生が、海、山、川での自然体験を通して、ウエムラ・スピリットを学んでいます。



Support

成育支援

地域とともに子どもを育て、見守り、支援します。



子ども家庭総合支援センターでは、プレイコーナーや屋外休憩スペースが訪れた人の憩いの場になっています。また、「箱庭療法」や「プレイセラピー」など多様な療法を用意し、児童心理司や児童福祉司、精神科医などさまざまな専門家がチームとなって、一人ひとりの子どもに合った支援をめざしています。



板橋第十小学校では、教室のほかに学年ごとのオープンスペースを設け、個別学習や協働学習、学びの発表など、児童たちの主体性や能動的な学習の姿勢をはぐくみます。



令和4年、従来の「子ども家庭支援センター」と「児童相談所」がひとつになった「子ども家庭総合支援センター」が開設しました。ここがハブとなり、地域のさまざまな施設・機関と連携し、子どもの成長や家庭の状況に寄り添ったサポートがはじまっています。区が主体となりひとつの組織になることで、切れ目ない一貫した支援と迅速な対応をめざしています。

子どもたちが、のびのびと主体的・能動的に学ぶための学校づくりを行う板橋区。板橋第十小学校と上板橋第二中学校では、その姿勢を教室や共有スペースなどの建物にも反映しています。また、学校をすべての子どもにとって安心して学べる居場所とするため、「地域とともにある学校」として学校・保護者・地域が一体となり、学校づくりに取り組んできました。学校と地域の人たちが目標やビジョンを共有し、協力し合いながら、子どもたちのより豊かな学びを支えています。



地域の憩いの場である「上二テラス」に設置された「かまどベンチ」は、炊き出しも可能。家庭科教室とともに地域の防災の拠点となります。上板橋第二中学校で各科目ごとに設けられているメディアスペース。ほかのクラスや異学年の生徒、教職員たちとの共通理解を促し、互いに高め合うことがねらいです。

Generation

世代間交流

世代を超えて分かち合うよろこびがここに。

絵手紙を体験する小学生
(大原フェスティバルより)。

将棋同好会では、小学3年生から
70代までが将棋盤を囲みます。



区立水車公園で行われた「稲作体験」
の田植えの様子。



令和4年5月に赤塚植物園で開催された
「グリーンフェスタ」では、ダイコンやホウ
レンソウなどの収穫体験が行われました。

文化活動をたのしむ時間は、世
代を超え、人と人とを結びつけ
ます。小学生とシニア世代が真
剣に対局する一場面。まなぼー
と大原では、子どもからシニア
世代までが、多種多様なサークル活動を行うなかで交流が生ま
れています。毎日小学生が集う、
板橋第五小学校あいキッズで
は、月に一度の「お茶会」の活動
成果として、板橋法人会・女性
部の方たちを招いてお手前を披露。
おもてなしのお返ししてもらい、和やかな時間を過ごしました。

また、古くから農業がさかんだった板橋区は、次世代を担う子どもたちの農業体験にも力を注いでいます。区立水車公園の水田では、子どもたちが半年をかけて田植えから米づくりを学ぶ「稲作体験」を行っています。赤塚植物園農業園では、野菜の栽培や収穫の体験を通して、子どもたちが「農」に親しんでいます。



まなぼーと大原の「大原フェスティバル」では、さまざまなサークルの発表やイベントを開催。多世代が集い、たのしい時間を過ごしました。

板橋第五小学校あいキッズの「お茶会」に、板橋法人会・女性部の人たちを招きました。



Environment

環境

区民のくらしへと広がる「ゼロカーボンいたばし2050」



地球温暖化やかつてない集中豪雨など、世界は気候非常事態に直面しています。

板橋区は環境保全の取り組みとして、小中学校や保育園、児童館など区内の施設で「緑のカーテン」を普及してきました。省エネやヒートアイランド現象の緩和などに効果のある緑のカーテンは、講習会やコンテストを通して区民に広がり、まちの緑化に役立っています。

令和4年には、2050年にCO₂排出実質ゼロをめざす「ゼロカーボンいたばし2050」を表明。再生可能エネルギー100%電力を区の施設に計画的に導入し、令和5年に同電力を利用した電気自動車の導入を予定しています。また、電気・ガスのエネルギー使用量の削減割合に応じて、区内共通商品券と交換できるポイント還元事業を進めるなど、区民・事業者とともにCO₂排出ゼロをめざしています。

「ゼロカーボンいたばし2050」のステッカーを貼った車が、二酸化炭素排出量実質ゼロをめざす板橋区の取り組みを広めます。

区役所本庁舎南館の壁面にはソーラーパネルが備えられ、区役所の電力を一部まかっています。

区役所本庁舎では毎年、緑のカーテンを設置。カーテンの内側の温度の低下や、CO₂の削減など、効果を発揮しています。



Event

催事

五感で感じるひとびとの活気、このまちがどんどん好きになる。



板橋区
民生活

大勢のひとでにぎわう板橋区の4大イベントはこのまちの大きな魅力です。

毎夏50万人を超える人出がある、いたばし花火大会は、戸田橋花火大会と同時開催で約1万2000発の花火が夜空を彩ります。関東最長級の「大ナイアガラの滝」をはじめ、花火師たちの競演に心躍ります。

全国1万人以上のランナーが競い合う板橋Cityマラソン。制限時間はたっぷり7時間、完走率95%を超えるなど初心者からベテランランナーまで広く親しまれています。

板橋区民まつりは、区民が主役のお祭りです。グリーンホール周辺を練り歩く神輿や阿波踊り、区民の踊りに盛り上がり、物産展は活気に満ちています。

一年の収穫を盛大に祝う板橋農業まつり。重さ1.5トンの野菜でできた「野菜宝船」を小学生と農家の人たちが引いてパレードし、交流を深めています。

いたばし花火大会

板橋Cityマラソン

板橋区民まつり

板橋農業まつり

History of Itabashi

板橋区のあゆみ



1932 年 板橋区誕生にわく区民



1932 年 初代の板橋区庁舎



1964 年
東京オリンピック聖火が板橋区を通過



1964 年
新学期で宿題を見せる小学生



1965 年
上板橋南口商店街の七夕飾り

- 1932 年

10 月

市郡併合により東京市板橋区が誕生
- 1933 年

7 月

新中山道（現国道 17 号）が開通
- 1943 年

7 月

府制を廃止し、東京都を設置。東京都板橋区となる
- 1946 年

3 月

板橋産業協議会（現板橋産業連合会）が発足。加盟 387 社
- 1947 年

4 月

初代公選区長（第 11 代）に牛田正憲が当選
- 1947 年

8 月

板橋区の一部を分離し、練馬区が誕生。東京 23 区となる
- 1948 年

1 月

「板橋区政ニュース」第 1 号を発刊（現「広報いたばし」）
- 1950 年

4 月

埼玉県戸田町の一部が編入
- 1951 年

4 月

第 2 代公選区長（第 12 代）に渋谷常三郎が当選
- 1952 年

8 月

戸田町と共催で納涼花火大会を開催（現「いたばし花火大会」）
- 1952 年

11 月

板橋区教育委員会が発足
- 1953 年

5 月

板橋区商店街連合会が発足。加盟 44 商店街、3127 名
- 1954 年

10 月

板橋区の人口が 30 万人を突破
- 1955 年

3 月

区民会館（現区立文化会館）が落成
- 1955 年

8 月

地方自治法改正による議会選任区長（第 13 代）として村田哲雄が就任
- 1958 年

9 月

台風 22 号により石神井川などがはん濫。被災者 5 万 6 千人余
- 1960 年

5 月

板橋区の人口が 40 万人を突破
- 1961 年

5 月

板橋区町会連合会が発足。加盟 146 町会
- 1962 年

12 月

板橋区役所新庁舎（旧南館）が落成
- 1964 年

1 月

板橋区議会、第 14 代区長として加部明三郎を選任
- 1964 年

8 月

環状 7 号線が開通
- 1964 年

10 月

東京オリンピック聖火が板橋区を通過
- 1968 年

12 月

都営地下鉄 6 号線（現都営三田線）巣鴨～志村（現高島平）間が開通
- 1972 年

10 月

第 1 回区民祭りを開催
- 1972 年

10 月

高島平団地の入居が始まる
- 1974 年

6 月

地方自治法の一部改正により、区長公選復活や原則市並みに自治権拡充
- 1977 年

8 月

首都高速 5 号線、北池袋・高島平間が開通
- 1978 年

11 月

第 1 回赤塚農業まつりを開催
- 1979 年

4 月

第 15 代区長に栗原敬三が当選
- 1979 年

5 月

都内初の区立美術館が開館
- 1981 年

10 月

板橋区立赤塚植物園が開園
- 1982 年

10 月

板橋区立文化会館が開館
- 1983 年

6 月

地下鉄有楽町線、池袋～成増間が開通
- 1985 年

1 月

「板橋区平和都市宣言」を行う
- 1985 年

3 月

第 1 回赤塚梅まつりを開催



昭和 29 年の板橋



現在の板橋



昭和 30 年頃の板橋駅



現在の板橋駅



昭和 29 年の大山銀座通り商店街



現在のハッピーロード大山商店街



昭和 46 年の高島平団地



現在の高島平団地



昭和 38 年のときわ台駅



現在のときわ台駅



昭和 37 年の見次公園



現在の見次公園

- 1985 年

9 月

埼京線開通により浮間舟渡駅が開業
- 1985 年

10 月

板橋区の人口が 50 万人を突破
- 1987 年

2 月

板橋区役所新庁舎（現北館）が落成
- 1991 年

4 月

第 16 代区長に石塚輝雄が当選
- 1992 年

9 月

冒険家・植村直己を顕彰する植村冒険館が開館
- 1993 年

4 月

「エコポリス板橋環境都市宣言」を行う
- 1993 年

7 月

「交通安全都市宣言」を行う
- 1995 年

4 月

板橋区立エコポリスセンターが開設
- 1996 年

4 月

「いたばし健康福祉都市宣言」を行う
- 1998 年

5 月

第 1 回東京・荒川市民マラソンを開催（現「板橋 City マラソン」）
- 2000 年

4 月

都内区市町村では初の区立公文書館が開館
- 2002 年

4 月

いきいき寺小屋事業を開始
- 2002 年

12 月

首都高速王子線が開通
- 2003 年

11 月

「板橋のいっぴん」に 57 品目を決定
- 2004 年

9 月

いたばしボローニャ子ども絵本館が開館
- 2005 年

4 月

18 出張所を 18 地域センター・6 区民事務所に再編
- 2005 年

7 月

「いたばし生活安全都市宣言」を行う
- 2006 年

5 月

環状 8 号線全線が開通
- 2006 年

6 月

「赤ちゃんの駅」を開始
- 2007 年

4 月

第 17 代区長に坂本健が当選
- 2008 年

1 月

観光キャラクターが「りんりんちゃん」に決定
- 2010 年

3 月

コミュニティバス「りんりん GO」が運行を開始
- 2011 年

1 月

赤塚庁舎新庁舎オープン
- 2011 年

3 月

東日本大震災が発生
- 2014 年

11 月

区役所本庁舎南館改築の落成式開催
- 2015 年

4 月

「あいキッズ」全校開始
- 2015 年

10 月

「板橋区基本構想」を議決
- 2017 年

10 月

「陸軍板橋製造所跡」が国史跡に指定される
- 2018 年

5 月

イタリアオリンピック委員会と協定書を締結
- 2019 年

6 月

区立美術館リニューアルオープン
- 2020 年

4 月

国が新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言を発出
- 2020 年

5 月

図柄入りナンバープレート「板橋ナンバー」の交付開始
- 2020 年

7 月

あずさわスポーツフィールドが開設
- 2020 年

12 月

板橋こども動物園リニューアルオープン
- 2021 年

3 月

平和公園内に中央図書館が開館
- 2021 年

7 月

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催
- 2021 年

12 月

植村記念加賀スポーツセンターグランドオープン
- 2022 年

1 月

「板橋区ゼロカーボンシティ」を表明
- 2022 年

4 月

板橋区子ども家庭総合支援センターが開設
- 2022 年

5 月

SDGs 未来都市に選定



1972 年 板橋改修落成式の様子



1978 年 第 1 回赤塚農業まつり



1981 年
中央図書館での読み聞かせ



1986 年
板橋区新庁舎と地下鉄駅舎開通式



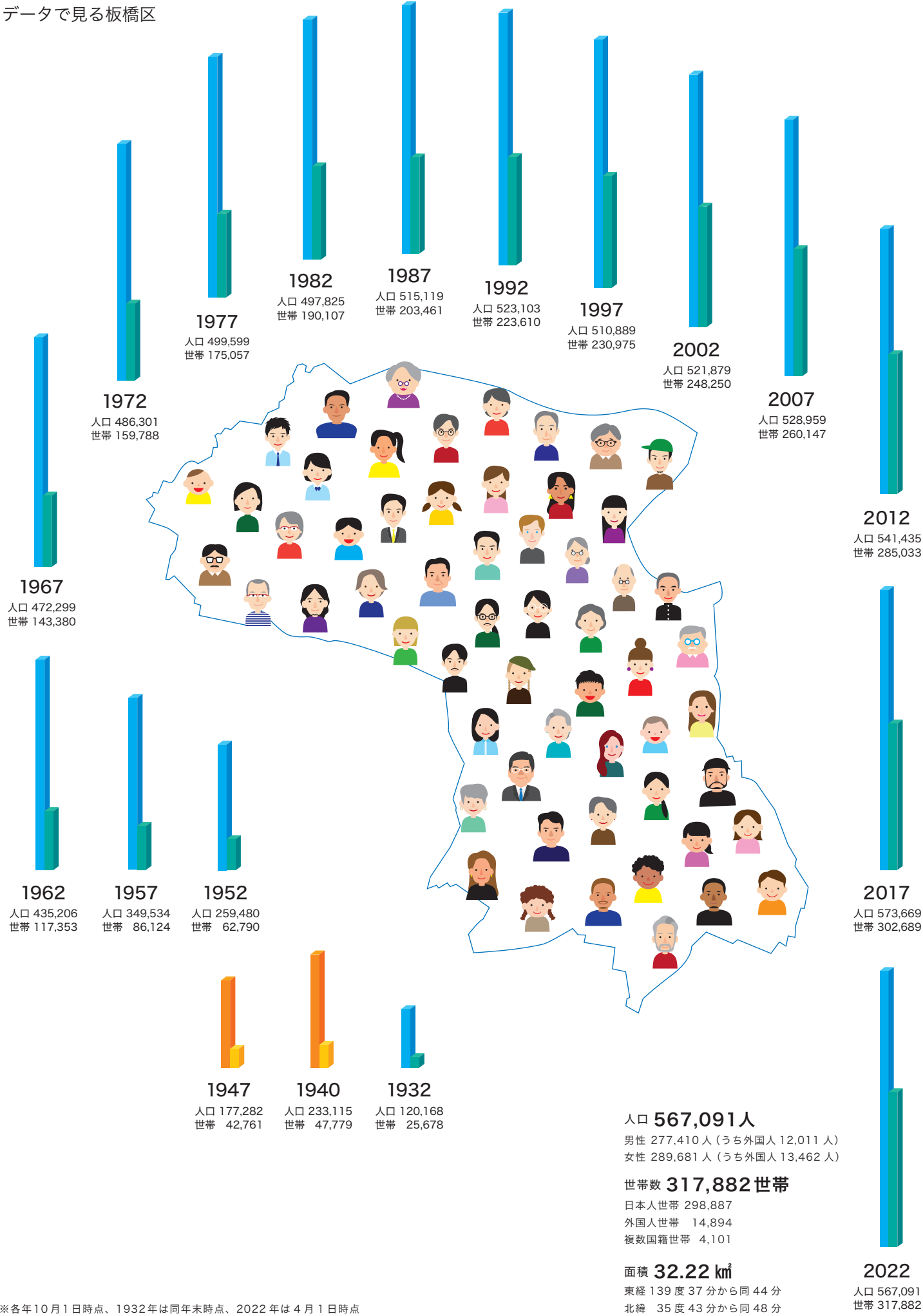
1989 年
リニューアル前のこども動物園



1998 年
第 1 回東京・荒川市民マラソン

Data of Itabashi

データで見る板橋区



※各年10月1日時点、1932年は同年末時点、2022年は4月1日時点

板橋区の1日 (2020年)

1人 1世帯の統計

板橋区の ランキング評価

区民が評価する 板橋区 (区民意識意向調査)

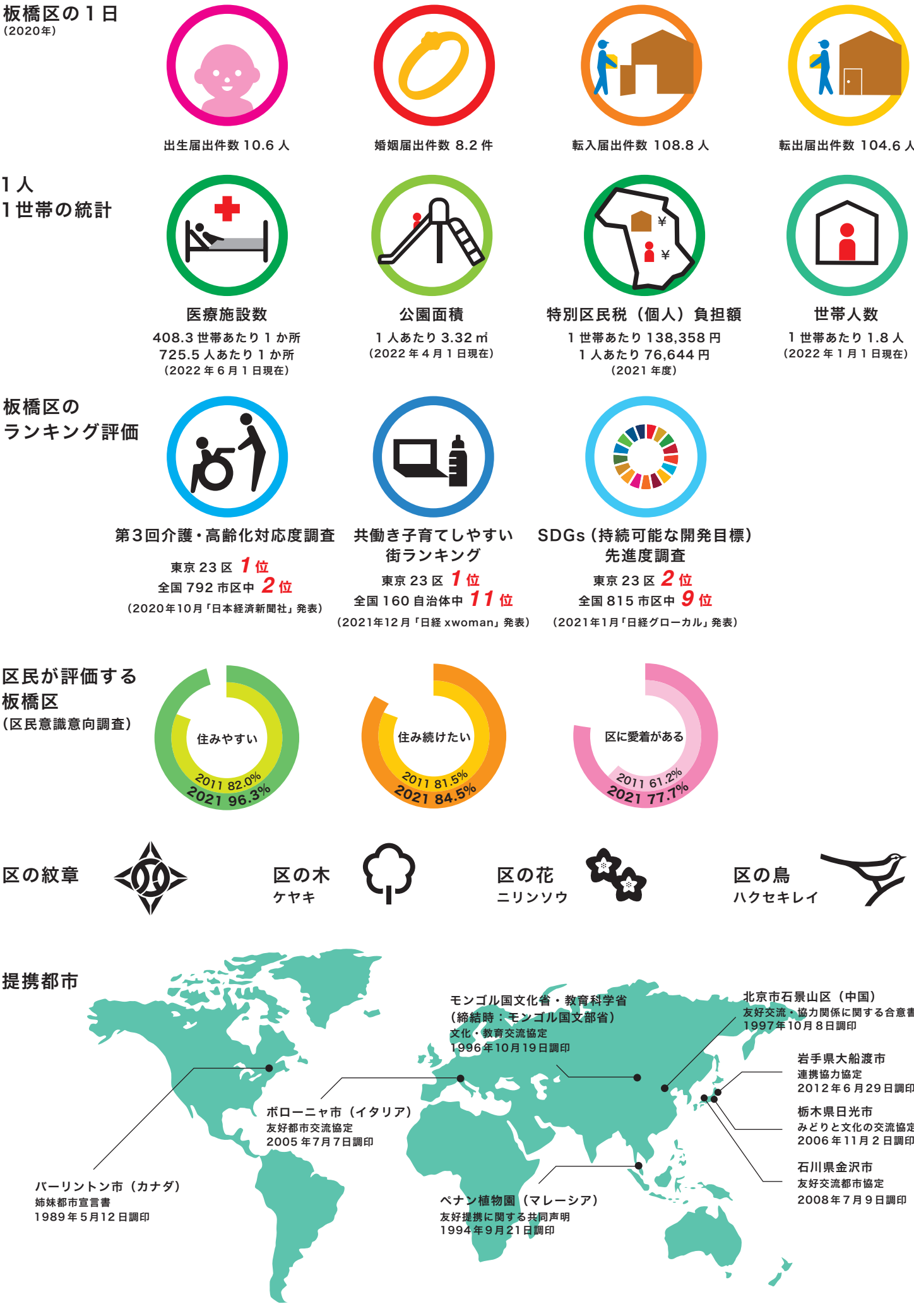
区の紋章

区の木 ケヤキ

区の花 ニリンソウ

区の鳥 ハクセキレイ

提携都市





編集 板橋区政策経営部広聴広報課
ブランド戦略担当課

〒173-8501

東京都板橋区板橋二丁目66番1号

TEL 03-3579-2515

FAX 03-3579-2028

sk-promo@city.itabashi.tokyo.jp

令和4年10月発行

刊行物番号 R04-47